

春芽アスパラガス高品質へ規格徹底



JA筑紫アスパラガス部会は3月15日、筑紫野市の集荷場で定例会を開きました。部会員や福岡普及指導センター、JA筑紫担当職員ら12名が参加。出荷規格や基準などについて部会員で意見交換や目合わせを行いました。

部会の春芽アスパラガスの出荷は2月中旬から始まり、3月中旬頃に最盛期を迎えました。今年は寒さが続いたことにより生育が遅れていましたが、品質は良好。3月に入り出荷量も増加しています。

高石光幸部会長は「規格などの基準を再確認して、高品質なアスパラガスを出荷しましょう」と呼びかけました。

粥占祭・全般判断は「上」



筑紫野市の筑紫神社で3月15日、かゆに生えたかびを見てその年の農作物や天候の豊凶などを占う「粥占祭（かゆうらまつり）」が行われました。

占いに使われたかゆは、2月15日の「粥炊祭」で炊かれたかゆを1カ月間神殿の奥に納められたもの。1カ月たって取り出したかゆの表面を判断委員が確認しました。

かびの生え具合や色で占った結果、全般判断は「上」。また、天候面では雨が「少なし」、稲作の作柄は「上」、麦作の作柄は「中下」と出ました。

祭りは毎年行われる伝統行事で、200年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財にも指定されています。

肥料高騰支援事業の申請受付会開催



JA筑紫は、3月2日から15日の間の6日間、管内6会場で行った国・県による肥料高騰支援事業の申請受付会を開きました。

国と県の支援事業については各生産部会の研修会や1月の営農経営座談会で事前に説明しており、今回の受付会は2022年11月から23年2月中旬までの水稲用肥料購入者が対象です。

国の同事業は23年5月購入分まで対象となるため、6月から7月に再度受付会を開く予定です。

畜魂祭



J A筑紫は3月20日、畜魂祭を筑紫野市のJ A本店にある畜魂碑前で執り行いました。

J A肥育牛部会や養鶏農家、J A役職員ら17名が参列しました。

筑紫野市阿志岐の圓徳寺の住職が読経し、白水清博組合長らが献花。家畜に感謝の気持ちを込めて供養しました。

加工用生タケノコ需要高まる



J A筑紫は3月17日、J A営農センターで2023年加工用生タケノコ出荷説明会を開きました。竹林を所有する組合員18名が参加。職員が集荷日程や集荷規格等、写真入りの資料を配付し説明しました。集荷は、3月27日から4月28日まで続く予定で、昨年の集荷27.7tを超える生タケノコの集荷を呼びかけています。

J Aは、中山間地の活性化や竹林整備、農業者の所得向上を目的に、毎年生タケノコの集荷を行っており、近年は国産タケノコの需要が高まっていることもあり、組合員が積極的に出荷をしています。

説明会では、J A農業振興課の職員が「タケノコを多く出荷していただき所得増大に繋げてほしいです」と話しました。

旬のアスパラガスを味わって



J A筑紫アスパラガス部会は3月24日、農産物直売所ゆめ畑春日店で試食販売を行いました。

この取り組みは、旬のアスパラガスをPRし、多くの消費者に魅力を知ってもらおうと行われました。部会員が来店客に試食をふるまい、おすすめの調理方法などを説明。試食を味わった来店客は、次々とアスパラガスを手に取り購入しました。

参加した部会員は「消費者に直接アスパラガスの美味しさと安全安心をPRすることができたので、これを機にアスパラガスの消費拡大に繋がると嬉しいです」と話しました。

部会は、定例会や圃場巡回、目合わせ会を定期的に行っており、今後も高品質なアスパラガスの生産に一丸となって取り組みます。

種ショウガ出荷開始



JA筑紫生姜出荷組合は、3月29日に筑紫野市の山口倉庫で、種ショウガ約540kgを種苗会社へ出荷しました。出荷組合員と種苗会社社員、JA農業振興課職員は、今年の種ショウガの出来具合などを確認。種ショウガは、種苗会社を通して全国に出荷されます。

生姜出荷組合は日頃より、品質管理の徹底に一丸となって取り組んでいます。

JA農業振興課職員は「今年は全体的に病気の発生が少なかったです。今後も高品質な種ショウガを出荷してほしいです」と話しました。